

折に触れ 四字熟語

NO.3 『吞刀刮腸』 どんとう かっちょう

< 意味 > 言葉の意味としては、刀を吞んで腸をけずり汚れを除き去る。転じて、今までの過ちを自覚し、全力で心を入れ替えて善人になること。

< 出典 > 「南史」 < 筍白玉伝 >

『若許某自新、必吞刀刮腸、飲灰洗胃。帝善其答即积之』

読み下し：『もし、それがし自ら新たならんを許さるれば、必ず刀を吞み込んで腸をえぐり、灰を飲んで胃を洗わん。帝、その答えを善しとし之を積す。』

一言： 痛そうシリーズその1

中国人の表現は、白髪三千丈のようにオーバーなというか誇大な形容が多くありますが、刀を吞むなど、痛そうどころか、おどろおどろしいと思うのは私だけでしょうか。

奥さんの出産入院中に不倫をした元代議士、賭博や麻薬に手を染めたバトミントン選手とか元プロ野球選手のニュースを見るにつけ、彼らにこの言葉を献上してやりたいと思い取り上げました。なお、この< 筍白玉伝 >から出た、飲灰洗胃（いんかい せんい）の四字熟語も同様の意味として存在しますが、それでは優し過ぎ。彼らにはやはり「吞刀刮腸」がぴったりですね。

参照文献： 三省堂「四字熟語辞典」 漢検「四字熟語辞典」